

観光庁の設立と観光立国の推進について

平成21年1月29日

観光庁

観光資源課長 水嶋 智



1. 観光立国推進への動き
2. 観光庁の設置
3. 国際観光の推進
4. 観光資源の活用と地域振興

1. 観光立国推進への動き

1. 国際観光の推進はわが国のソフトパワーを強化するもの

- 諸外国との健全な関係の構築は国家的課題
- 国際観光を通じた草の根交流は、国家間の外交を補完・強化し、安全保障にも大きく貢献
- 中国、韓国からの訪日観光客数は大きく拡大
 - ・ 年間の訪日観光客数は中国94万人、韓国260万人（平成19年、両国で全体の42.5%）
 - ・ 中国 16%増、韓国 23%増（平成19年の対前年比）

2. 観光は少子高齢化時代の経済活性化の切り札

- 少子高齢化で成熟した社会には、観光振興＝交流人口の拡大、需要の創出による経済の活性化が有効
- 国内旅行消費額は23.5兆円。生産波及効果は52.9兆円で、これによる雇用効果は442万人（総就業者数の6.9%）
- （※ともに平成18年度）
- 訪日外国人も今や無視できない消費活動の主体（平成18年度の訪日外国人旅行消費額→1.4兆円）

3. 交流人口の拡大による地域の活性化

- 地方においては地域振興策の新たなアプローチが必要。観光による交流人口の拡大は地域経済の起爆剤
- 集客力のある個性豊かな地域づくりは、各地域の自主・自律の精神も促す

4. 観光立国により国民の生活の質を向上

- 退職期を迎える団魂の世代は、新たな生きがいを模索。観光交流の拡大は、精神活動を含めて生活の質の充実に貢献
- 観光立国の推進は、我が国の歴史的・文化的価値を再認識するプロセスであり、日本の魅力の再活性化にもつながるもの



～ 観光交流人口の拡大による日本の再生 ～

- 平成15年 1月24日 第1回観光立国懇談会（総理大臣主催）を開催
1月31日 小泉総理が施政方針演説で「2010年に訪日外国人旅行者を倍増の1千万人に」と発言
4月1日 ビジット・ジャパン・キャンペーン開始
4月24日 観光立国懇談会が報告書を取りまとめ
- 平成18年 12月13日 議員立法により観光立国推進基本法が成立（全会一致）
- 平成19年 1月1日 観光立国推進基本法が施行
6月29日 観光立国推進基本計画を閣議決定
- 平成20年 4月25日 観光庁の設置に係る「国土交通省設置法等の一部を改正する法律」が成立
5月16日 「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」が成立
9月29日 麻生総理が施政方針演説で「10月1日に発足の運びとなる観光庁の任務に、観光を通じた地域の再生があることを申し添えておきます。」と発言
10月1日 観光庁設置

観光立国推進基本計画の概要

観光立国推進基本法の制定
(平成18年12月)

・ 基本法第10条の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「観光立国推進基本計画」を策定（平成19年6月 閣議決定）

基本的な方針

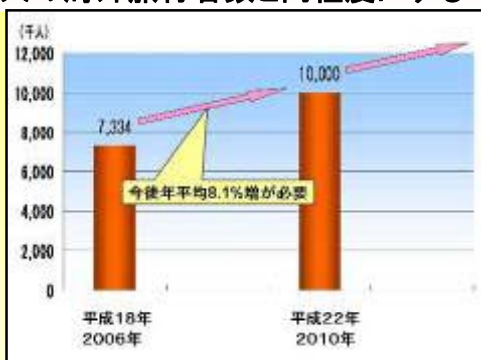
◆ 国民の国内旅行及び外国人の訪日旅行を拡大するとともに、国民の海外旅行を発展 等

目 標

計画期間における基本的な目標

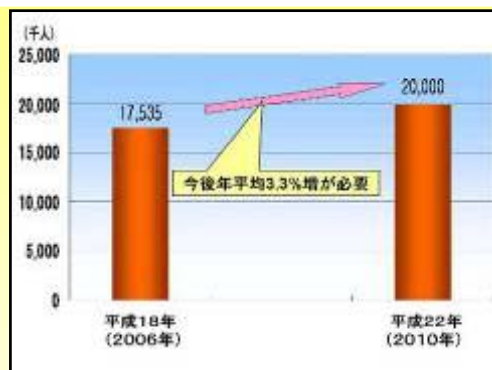
○訪日外国人旅行者数

平成22年までに1,000万人にし、将来的には、日本人の海外旅行者数と同程度にする



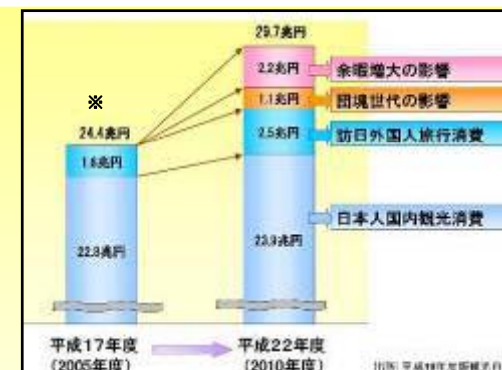
○日本人の海外旅行者数

平成22年までに2,000万人にする



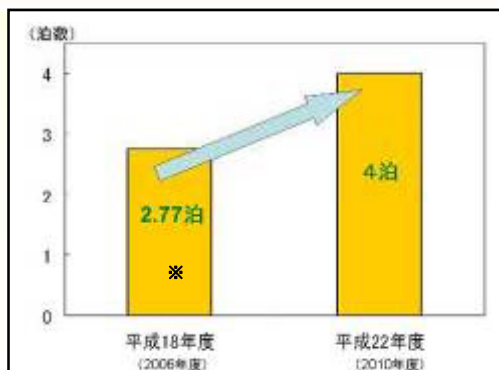
○国内における観光旅行消費額

平成22年度までに30兆円にする



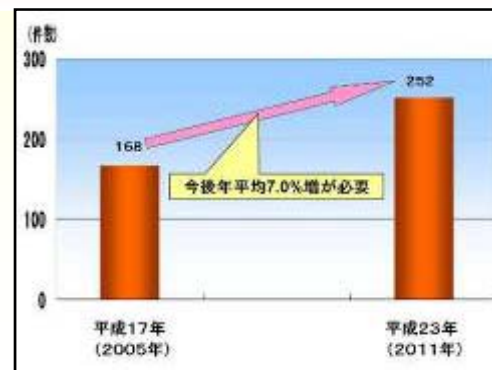
○日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数

平成22年度までに年間4泊にする



○我が国における国際会議の開催件数

平成23年までに5割以上増やす



計画期間

5年間

施策

目標を達成するための具体的な施策を記述

その他

毎年度点検を行うとともに、おおむね3年後を目途に見直し等

2. 観光庁の設置

観光立国関係閣僚会議

○内閣総理大臣が主宰し、全閣僚で構成、観光立国行動計画を策定(平成15.7)

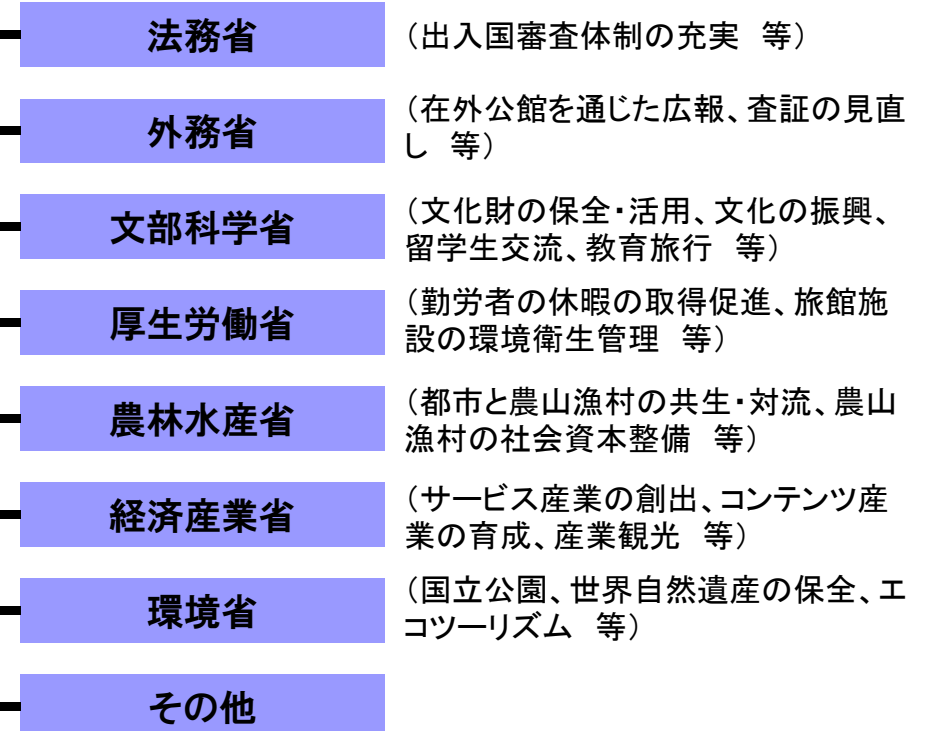
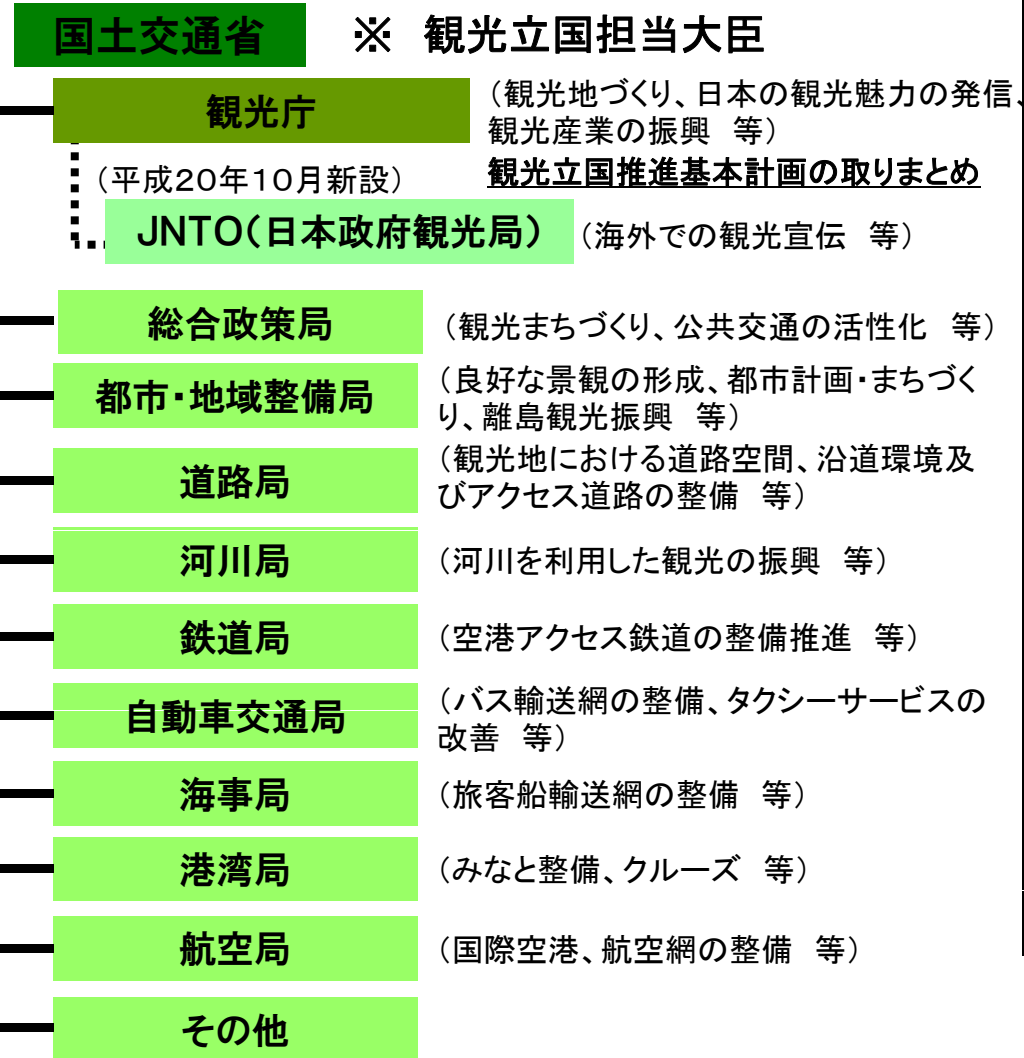
観光立国関係省庁連絡会議

○国土交通省観光庁長官が主宰、関係省庁の局長等で構成

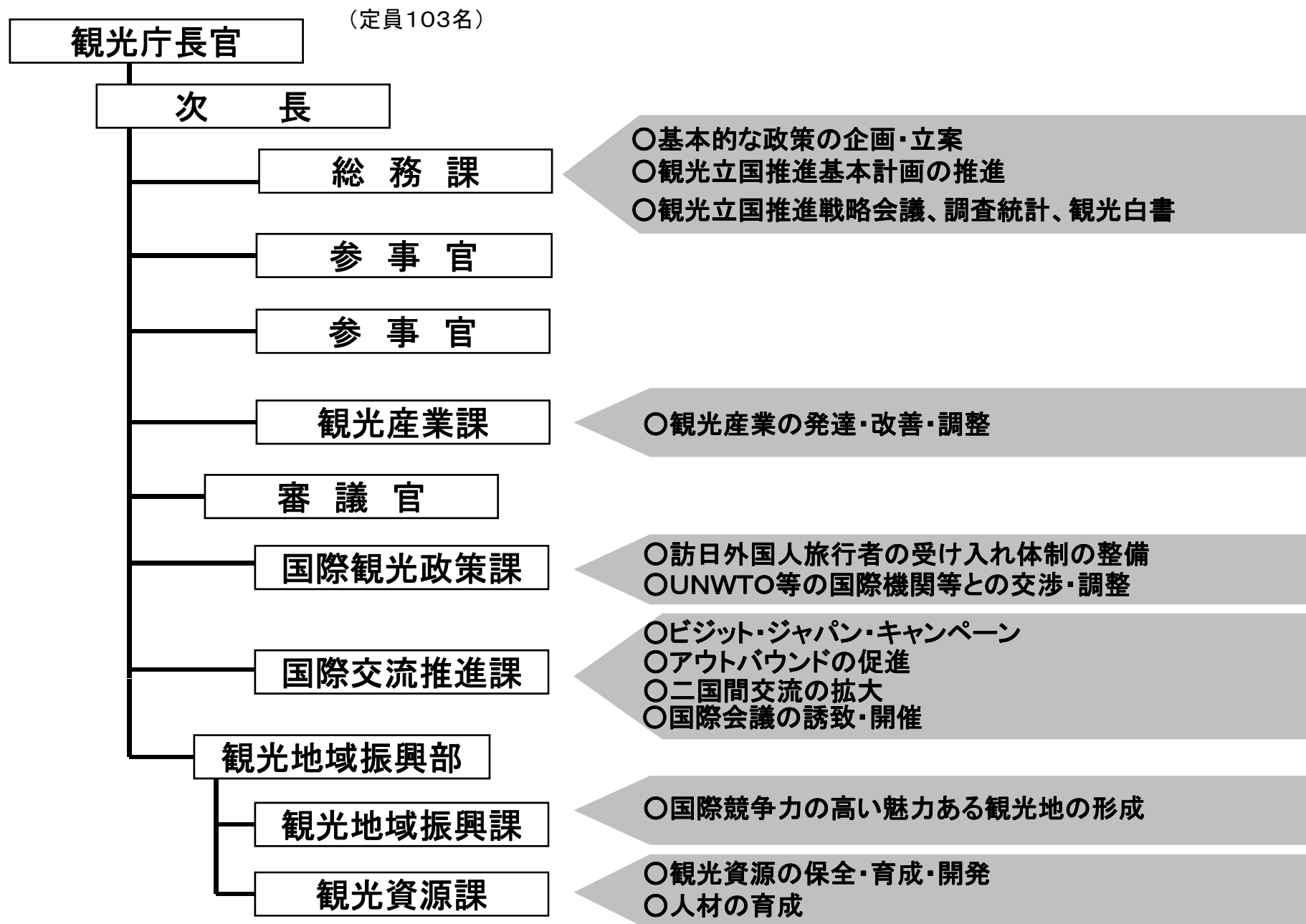
観光立国推進戦略会議

(閣僚会議の下に開催、観光に関する有識者で構成)

- 国外の来訪者の増大及び国内観光活性化のための愛・地球博の活用(平成16.6提言)
- 国際競争力のある観光立国の推進(平成16.11提言)
- 地域が輝く「美しい国、日本」の観光立国戦略(平成19.6提言)
- 北海道洞爺湖サミットを契機とした北海道・日本の魅力の世界への発信及び観光振興に関する提言(平成19.11)



観光庁の組織体制と業務分担について



観光庁の理念

私たちは、「観光立国の実現」を通じて、我が国経済社会の活性化、活力に満ちた地域社会の実現の促進、国際相互理解の増進や国際平和の実現、健康で文化的な生活の実現などに貢献します。

このため、具体的な目標を定めて、以下のとおり「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に取り組みます。

- 我が国の魅力を内外に発信します。
- 国内外の交流人口を拡大し、我が国や地域を元気にします。
- 地域の自律的な観光地づくりを応援します。
- 観光関連産業を活性化します。
- すべての人が旅行しやすい環境を整備します。

観光庁の行動憲章

私たちは、国の行政の新しい姿を目指し、「開かれた観光庁」として新しい意識と組織文化の創造に職員一人一人が取り組みます。

観光庁5か条

- 民間、地方自治体、他省庁などと交流し、新しい力を発揮します。
- タテ割りに陥ることなく、無駄を省いてスピード感を持ち、迅速に成果を出します。
- 積極的に情報を発信し、仕事のプロセスや結果を公開します。
- 専門性の向上に努め、観光に関する相談には幅広く応じます。
- 壁のない自由なコミュニケーションを徹底し、働きやすい職場環境を作ります。



概要

- ・観光立国の実現に向けた取組みを進めるに当たり、行政運営上の参考とするため、「観光庁アドバイザー・ボード」を開催。
- ・外部の有識者が参加し、観光庁の運営方針や施策の立案・実施状況等について、意見を頂く。
- ・平成21年1月13日(火)に第一回を開催。今後は、四半期に一度を目途に開催予定。

メンバー

生田 正治 (いくた まさはる)	(株) 商船三井相談役
奥田 務 (おくだ つとむ)	J.フロントリテイリング (株) 代表取締役社長兼CEO
絹谷 幸二 (きぬたに こうじ)	東京芸術大学教授・日本芸術院会員
中田 英寿 (なかた ひでとし)	元サッカー日本代表
モンテ カセム (もんて かせむ)	立命館アジア太平洋大学学長
吉田 忠裕 (よしだ ただひろ)	YKK(株) 代表取締役社長

観光立国の実現 42.5億円

1. 国際競争力の高い魅力ある観光地の形成 5.8億円

内外観光客の宿泊旅行回数・滞在日数の拡大を目指し、二泊三日以上の滞在型観光を促進するため、地方自治体、観光関係団体、農林漁業団体、NPO等の幅広い関係者が一体となった観光圏整備の取組みを総合的に支援する。

2. 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に関する人材の育成 0.5億円

観光産業の新たなビジネスモデルの構築を支援し、そのノウハウを普及・啓発するため、「観光産業のイノベーションの促進事業」として、客室稼働率の向上や業務の共同化・効率化等に関する実証事業を行い、生産性向上や国際競争力の強化を図る。

また、観光地域づくり人材育成支援事業により、各地域が行う自律的かつ持続可能な層の厚い観光振興の担い手を育成する取組みを支援する。

3. ビジット・ジャパン・アップグレード・プロジェクト等による国際観光の振興 33.3億円

2010年までに訪日外国人旅行者数を1000万人にする目標を確実に達成するとともに、ポスト2010を見据え、国際観光振興の更なる展開を図るため、「ビジット・ジャパン・アップグレード・プロジェクト」として、我が国の観光魅力の一層の理解の促進等に取り組むほか、IC乗車券等の国際相互利用化等、旅行者の利便性の増進を図る。

あわせて、国際会議の開催・誘致の推進や、開発途上国における観光客の受入体制強化等に対する支援を行う。

4. 観光旅行の促進のための環境整備 0.6億円

「エコツーリズム」、「産業観光」等のいわゆるニューツーリズムについて、「ニューツーリズム」の旅行商品化を進めるための留意点等をまとめたマニュアルの策定等により、「ニューツーリズム」の普及・啓発を図る。

また、旅行需要の平準化や休暇取得促進等の課題の解決に資する取組みに関する実証事業等、観光旅行の促進のための環境整備を推進する。

基本的な5つの目標

観光立国推進基本計画 平成19年6月閣議決定

- 訪日外国人旅行者数を平成22年までに1,000万人にし、将来的には、日本人の海外旅行者数と同程度にする。
- 日本人の海外旅行者数を平成22年までに2,000万人にする。
- 国内における観光旅行消費額を平成22年度までに30兆円にする。
- 日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数を平成22年度までに年間4泊にする。
- 我が国における国際会議の開催件数を平成23年までに5割以上増やす。

観光関連予算案額の合計 : 2,180億円(2,147億円)

※()内は平成20年度予算額

※観光関連部分を特定できないものは総額には含めていない

平成21年度における主要施策

国際競争力の高い魅力ある観光地の形成

- 国際競争力の高い魅力ある観光地の形成【国土交通省】
- 広域・総合観光集客サービス支援事業【経済産業省】
- 良好な街並みの形成等【国土交通省】
- 日本風景街道の推進【国土交通省】
- 特別史跡平城宮跡整備【文化庁】
- 世界文化遺産の活用【文化庁】
- 良好な景観形成の推進【国土交通省】
- 「日本映画・映像」振興プラン【文化庁】
- 沖縄における観光振興施策【内閣府】
- 地域公共交通活性化・再生総合事業【国土交通省】
- 都市鉄道の利便増進【国土交通省】
- 旅客船ターミナル等の整備【国土交通省】

合計: 1,401億円

観光産業の国際競争力の強化及び 観光の振興に寄与する人材の育成

- 観光産業の国際競争力強化、観光の振興に寄与する人材の育成【国土交通省】
- 地域における男女共同参画促進総合支援経費【内閣府】

合計: 1.3億円

国際観光の振興

- ビジット・ジャパン・アップグレード・プロジェクト等による国際観光の振興【国土交通省】
- 観光誘致関連広報【外務省】
- 映像国際放送の実施【総務省】
- 観光立国実現のための出入国審査の充実【法務省】
- 留学生交流の推進等【文部科学省】 等

合計: 575億円

観光旅行の促進のための環境の整備

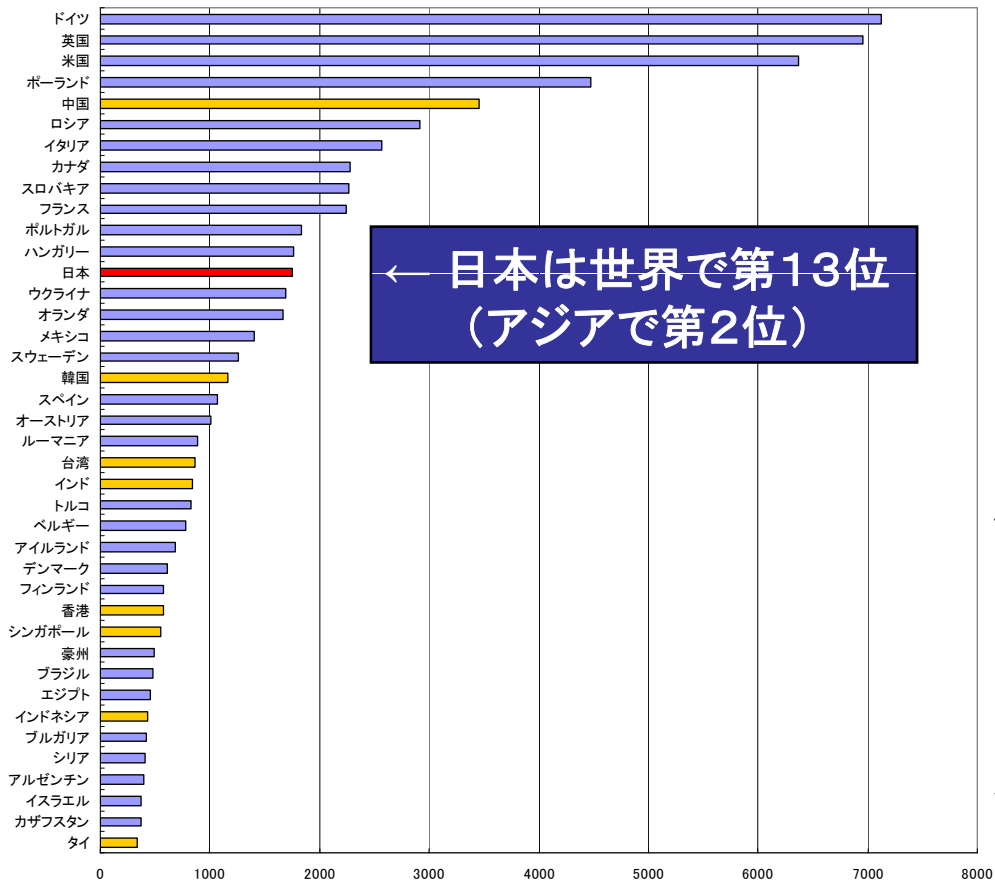
- 観光旅行の促進のための環境整備【国土交通省】
- 休暇の取得の促進【厚生労働省】
- 鉄道駅におけるバリアフリー化の推進【国土交通省】
- エコツーリズム総合推進事業費【環境省】
- 都市と農山漁村の共生・対流の推進【農林水産省】
- 自然公園等事業費【環境省】 等

合計: 202億円

3. 国際観光の推進

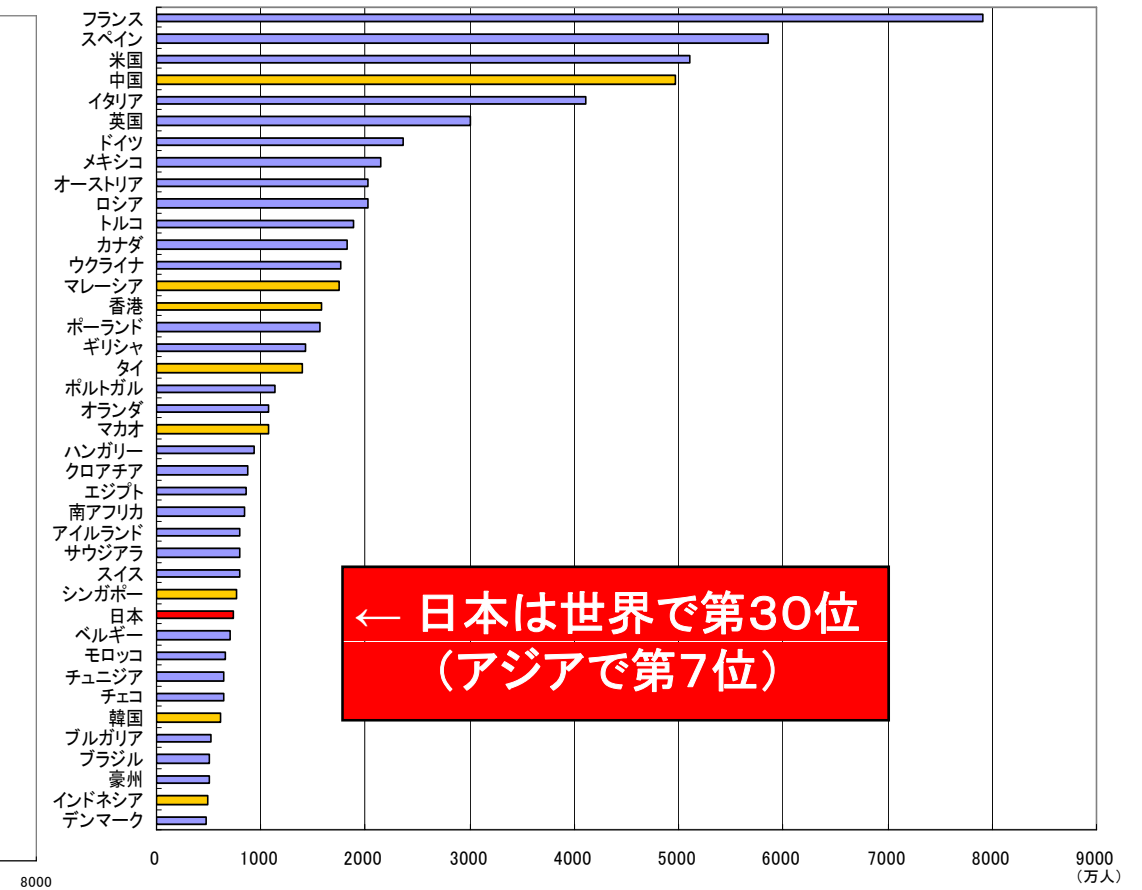
我が国は出国旅行者数(アウトバウンド)に比べて入国旅行者数(インバウンド)が少ない

出国旅行者数国際ランキング(2006年)
(アウトバウンド)



← 日本は世界で第13位
(アジアで第2位)

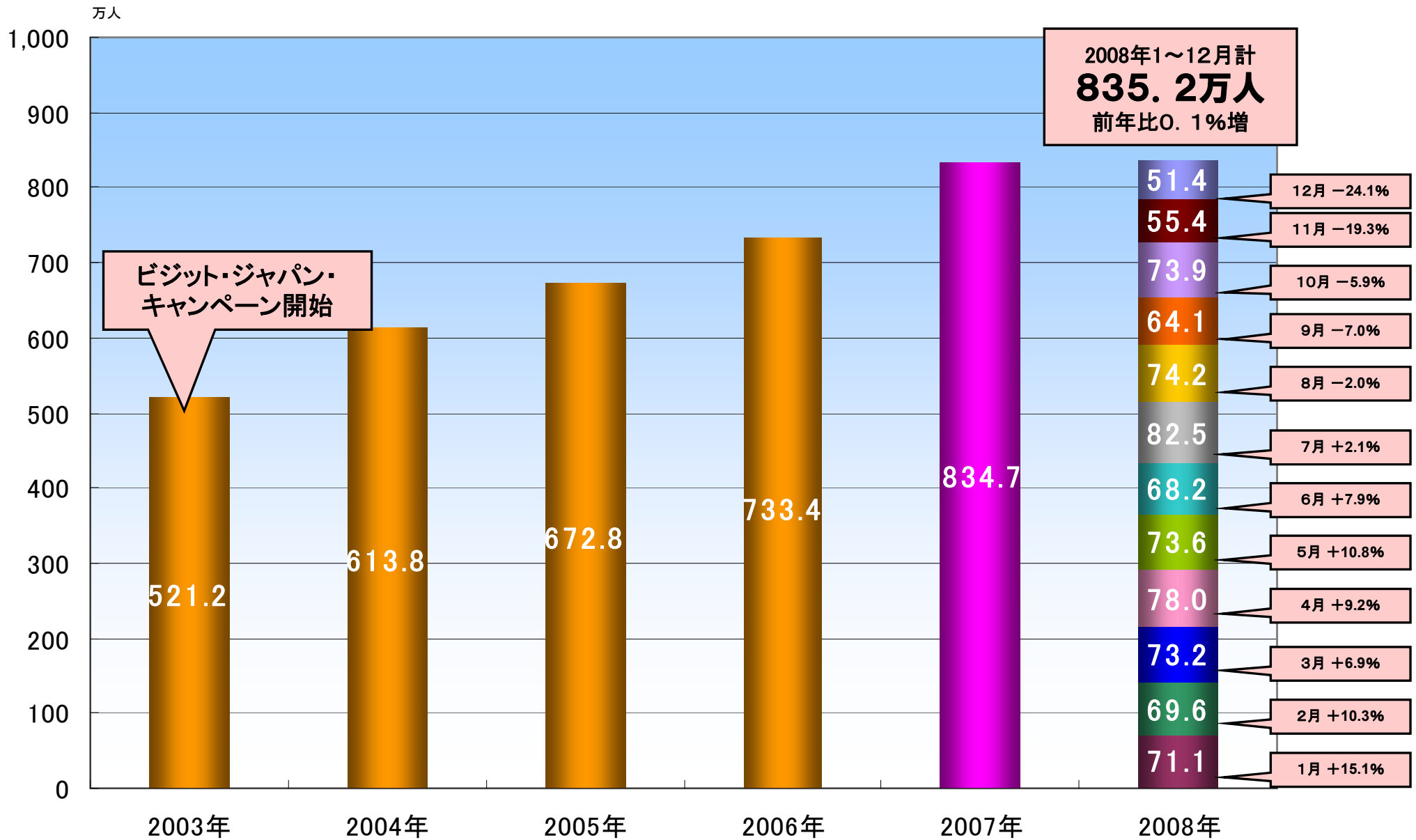
外国人旅行者受入数国際ランキング(2006年)
(インバウンド)



← 日本は世界で第30位
(アジアで第7位)

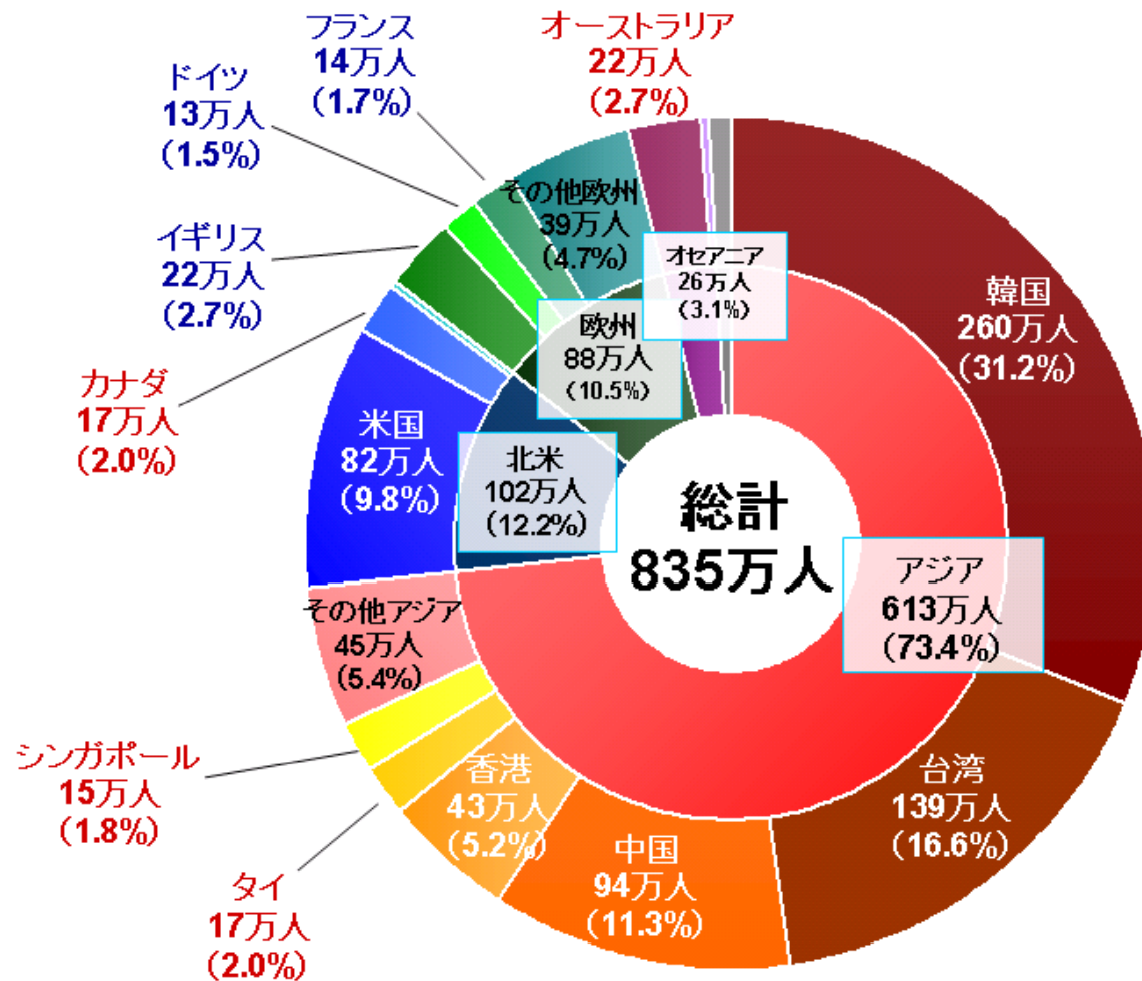
※ウクライナ、ギリシャ、サウジアラビア、豪州、デンマークについては、2005年の数字を掲載。

訪日外国人旅行者数の推移



注) 2008年11月以降の値は推計値

■ 訪日外国人旅行者数のおよそ7割がアジア



(2007年)

白字 重点市場(2003年度～)
 青字 重点市場(2004年度～)
 赤字 重点市場(2005年度～)

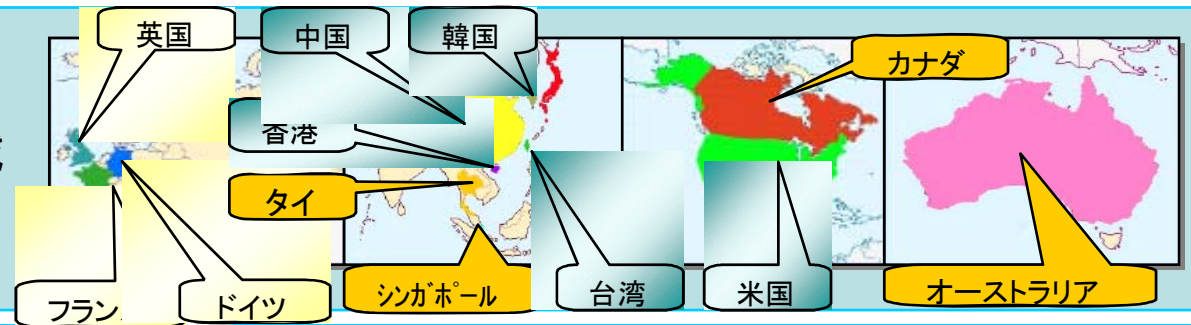
2007年度重点市場分
 計 737万人(88.3%)

2010年までに訪日外国人旅行者数を1,000万人にするとの目標に向け、重点12市場を対象に、我が国の観光魅力を発信するとともに、日本への魅力的な旅行商品の造成等を支援するビジット・ジャパン・キャンペーンを官民一体で推進。

重点市場

訪日旅行者数の多い12の国・地域

※このほか、有望新興市場(インド、ロシア、マレーシア)において調査を実施



認知度向上事業

我が国の観光魅力を発信するための事業

- 海外メディアの日本への招請、取材支援
- 海外のTVCM等による広告宣伝
- WEBサイトによる情報発信
- 海外の旅行博覧会等への日本ブース出展



台湾メディア招請事業
(道後温泉・2007年9月)



ドイツの国際旅行博・ITBベルリン
への出展(2007年3月)

誘客事業

魅力的な訪日旅行商品の造成・販売支援や、青少年交流の拡大に向けた事業

- 海外旅行会社の日本への招請、商談会の実施
- 訪日旅行商品の共同広告
- 訪日教育旅行の誘致



大規模商談会・YOKOSO!JAPAN
トラベルマートの実施(2007年11月)



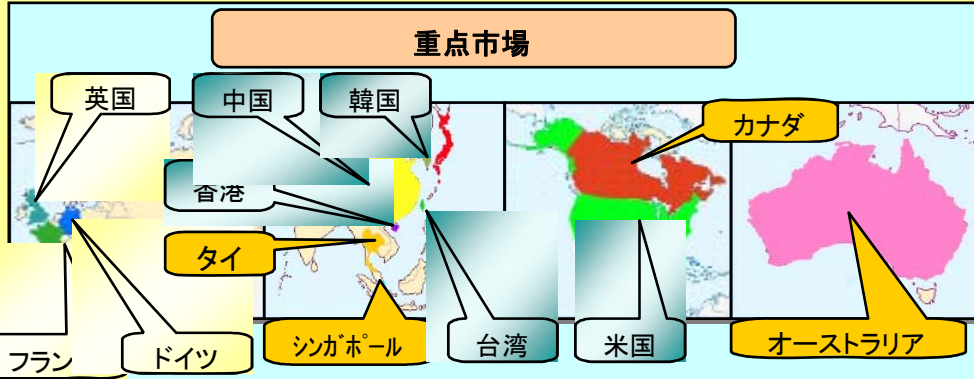
日台教育旅行関係者の
意見交換会(2007年9月)

*上記の事業を地域と共同で実施する場合には、国は総費用の1/2を上限に地域(自治体・民間等)と連携。

(ビジット・ジャパン・キャンペーン地方連携事業)

- ① ビジット・ジャパン・キャンペーンは5年目に入り、訪日旅行の選択を定着させ、リピーター化を働きかける段階。
- ② 観光立国推進基本計画の目標達成のためには、訪日外国人旅行者数の持続的な増加に向けての取組が必要。
→ 訪日旅行の満足度を高め、訪日リピーターを増加させるための取組が必要。

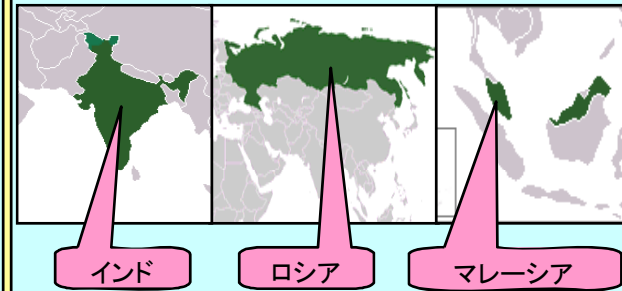
更なる発信力の強化・拡大



12の重点市場ごとの特性を踏まえつつ、メディア招請、エージェント招請、旅行博出展、広告宣伝、青少年交流、姉妹都市交流、文化・スポーツ交流等の観光プロモーション事業を実施。20年度は、特に以下の視点に力点を置く。

- ① 体験型、滞在型、広域周遊型旅行形態の発信
- ② 日中韓三国における観光交流拡大の取組
- ③ 洞爺湖サミットを契機とした観光魅力の発信

新興市場



訪日観光需要の潜在力のある有望新興市場であるインド、ロシア、マレーシアについて、モニター調査等、戦略的な市場調査を積極的に実施。

旅行者の満足度の向上

外国人旅行者の潜在需要の顕在化

外国人旅行者の交通機関を利用した移動実態や宿泊実態を明らかにし、満足度向上に向けた潜在需要の顕在化を図る。

○外国人旅行者の旅行実態調査事業

個人旅行者の増加に対応した交通機関の利用環境の改善・向上

交通事業者による訪日外国人旅行者をターゲットにした取組を促すための条件を整備。

○交通結節点におけるシームレスな標識案内環境整備調査事業

安全、容易な個人旅行を実現する社会システムの構築

外国人が真に制度的、物理的、心理的に抵抗なく日本において旅行を楽しめるようにするための条件を整備。

○ICカードの共通化・相互利用化のための調査事業

観光立国推進戦略会議(座長:牛尾治朗 (株)ウシオ電機会長)において、「観光庁は、関係省庁と連携して、観光立国に係る中長期的な戦略、特にインバウンドに係る中長期的戦略(2020年に2千万人を目標)を策定すべき。」と提言。観光立国推進戦略会議のワーキンググループにおいて必要な検討を開始。

ワーキンググループは、第1回を昨年8月8日に開催。本年1月にとりまとめを行う予定。

2000万人時代の訪日客の状況

○宿泊客のおよそ6人に1人は外国人(2007年は、およそ14人に1人)

○旅行消費額の外国人割合 2006年5.8% → 2020年16.3%

現在のアメリカ(14.3%)を超え、イギリス(18.1%)、ドイツ(17.0%)に迫る。

◆2000万人達成時には訪日外国人旅行者の旅行消費額が4.3兆円、直接雇用効果が39万人となると推測。

※ 2006年の旅行消費額は1.4兆円

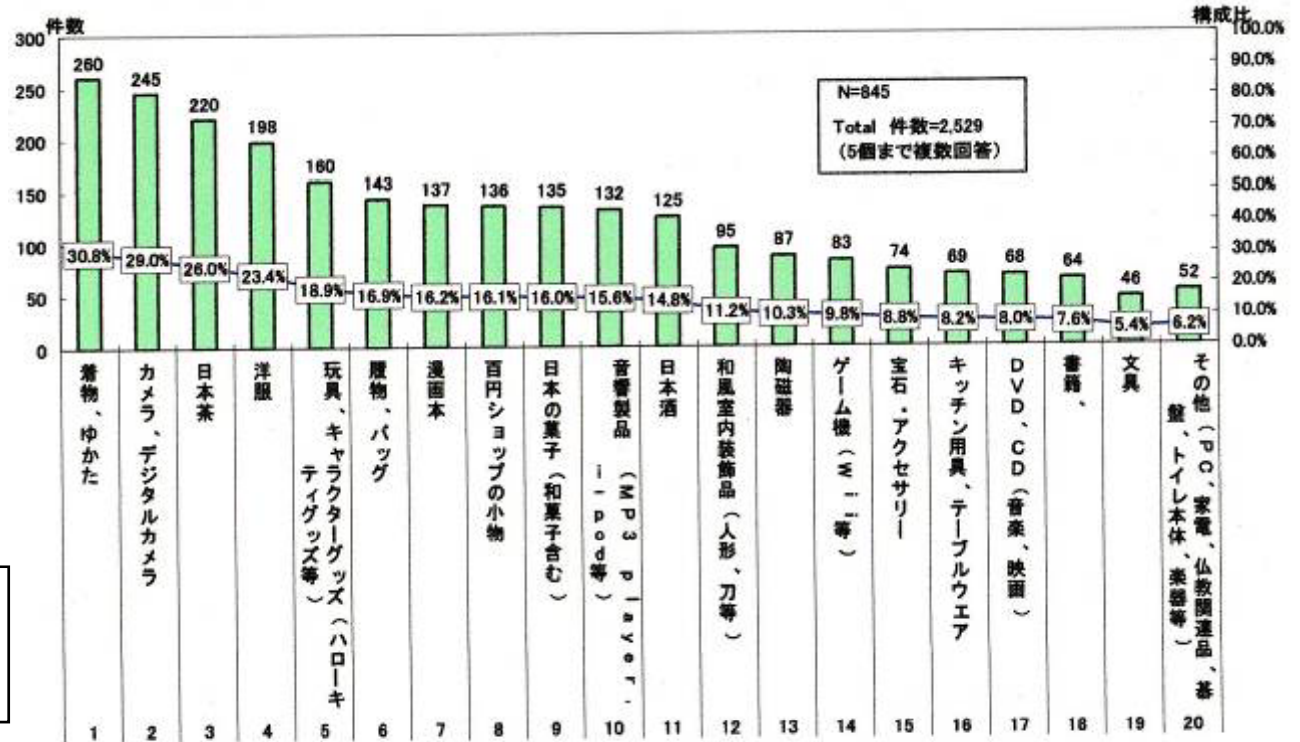


2000万人を見据えた海外プロモーション戦略やハード・ソフト双方の総合的な受入環境の整備について検討

JNTOが2008年7月下旬～9月22日に外国人旅行者向け総合観光案内所「ツーリスト・インフォメーション・センター(TIC)」の利用者を対象に実施した調査結果⇒日本滞在中購入したい品目として、5位に「玩具・キャラクターグッズ」(18.9%)がランクインしている。

(日本政府観光局(JNTO)が取りまとめたTIC利用外国人旅行者の訪日旅行動向調査報告書:2008年12月より)

図7. 日本滞在中購入したい品目 (5個まで選択式回答)



「訪日外国人におすすめしたい日本の魅力は？」と題して、WEBアンケートを実施している。
(JTB旅のアンケート「たびQ」:2008年10月1日～10月13日)

- ◎「祭りなどの風物詩・伝統的な文化」:43%
- ◎礼儀作法など「和の心」:29%
- ◎「温泉・グルメ」:15%
- ◎「アニメ・漫画など現代カルチャー」:7%

Ghibli Museum Afternoon -Hayao Miyazaki's Animation World-



F600

You like Japanese animation?
Then you must know Ghibli and Hayao Miyazaki!

Tour Price (Japanese yen, tax included):

¥6,000 (Adult) **¥5,500** (Child 6-11 yrs.)



©Mitsuo Iwano Ghibli



Ponyo on the Cliff by the Sea ©2008 Nibariki - GNDHDTT

Time	1:40 - 7 p.m.
Departure dates	Year 2009: Jan. 7-Dec. 25: Mon., Wed. & Fri. (Not operated when the Ghibli Museum, Mitaka is closed)
Meal	No meals included
Your guide	English-speaking guide service is included.
Pick-up & Drop-off	Pick-up service is available. See page 22.
Note	To be operated with a minimum of 1 person booked

Itinerary	
1:40 p.m.	Hamamatsucho Bus Terminal → Hamamatsucho Sta. → Mitaka Sta. → GHIBLI MUSEUM (90min.) → Kichijoji Sta. → Tokyo Sta.
6-7 p.m.	Tour disbands on arrival at Tokyo Sta. (Tour guide will tell you how to go back to your hotel.)

- Remarks**
- Public transportation is used for round-trip transfers to the museum in Mitaka, a suburb of Tokyo.
 - This tour is walking tour. We recommend you to wear casual clothing and comfortable shoes suitable for walking.
 - This tour is offered for travellers from overseas only.
 - Baby buggies are not allowed to enter.

三鷹の森ジブリ美術館

Mukojima Geisha Tour



A500

Tour Price (Japanese yen, tax included):

¥12,000 (Adult over 18 yrs.) **Not Available** (Child 6-11 yrs.)



Time	5:20 - 9:30 p.m.
Departure dates	Year 2009: Departure date will be announced on Jan. 31, 2009
Meal	1 dinner is included.
Your guide	English-speaking guide service is included.
Pick-up & Drop-off	Drop-off service is available. See page 22.
Note	To be operated with a minimum of 20 persons booked.

Itinerary	
5:20 p.m.	Assemble at Hamamatsucho Bus Terminal. → Rainbow Bridge <drive through> → Odaiya (20 min.) → "Mukojima Sakurachaya," Traditional Japanese-style restaurant (90 min.)
Dinner	Japanese-style dinner. (You can enjoy Geisha's dance and song at a restaurant.)
9:30 - 10:30 p.m.	Drop-off service

MUKOJIMA "SAKURACHAYA"
Traditional Japanese-style Restaurant. You can enjoy geisha's dance and song at a restaurant.

⇒SUNRISE TOURS (JTBグローバルマーケティング & トラベル) が主催するツアーの一部

in a kimono

TYO-O-A590 Akihabara Walking Tour

In Japan, Otaku is cool!
Visit a maid café, the Anime Center and the Electric Town of Akihabara, a locus of subcultures, in afternoon half day tour.

Tour Price (JPY, per person)	¥4,500 (Adults) ¥3,500 (Children 6-11 years)
Departure dates	Wed. & Fri. (Jan. 10-Dec. 26)
Meal	No meals included
Tour guide	An English-speaking guide service is included.
Note	To be operated with a minimum of 2 persons booked



Maids at Pinaflore (example)

Itinerary	
1:40 p.m.	Hamamatsucho Bus Terminal → Akihabara Sta. → Kotobukiya (20 min.) → Tsukuma Robot Kingdom (20 min.) → Chichibu Denki (canned oden) → Maid Café Pinaflore (40 min.) → Gachapon Center → Tokyo Anime Center (20 min.) → Electric Town → Akihabara Sta. → Hamamatsucho Bus Terminal
5:10 p.m.	Drop-off service to the hotel (See page 22)

Remarks • Transport to Akihabara will be JR line.

メイド喫茶

Garden, Bonsai, and Cruise on

TYO-O-A540 Japanese Garden

Learn about the world of bonsai!

Tour Price (JPY, per person)	¥5,000 (Adults) ¥4,500 (Children 6-11 years)
Departure dates	Sat. & Sun. (Mar. 1-Nov. 30) (except Mar. 22, May 2-3)
Meal	No meals included.
Tour guide	An English-speaking guide service is included.
Note	To be operated with a minimum of 2 persons booked.



Itinerary	
1:40 p.m.	Hamamatsucho Bus Terminal → Shunkaen Bonsai Museum (60 min.) → Hama-rikyu Garden (40 min.) → Hamamatsucho Bus Terminal
5:30 p.m.	Drop-off service to hotels. (See page 22)

4. 観光資源の活用と地域振興

アニメ・マンガに対する国土交通省の取り組み

観光立国推進戦略会議(平成16年11月)

【提言14】

地域は、日本人のポップカルチャーや精神生活を代表するような素材(アニメ、回転寿司、マグロのせり、禅、武道、相撲、映画ロケ地、祭り等)を体験できる環境づくり・受入れ態勢づくりに努力する。

観光立国推進基本計画(平成19年6月29日閣議決定)

(ポップカルチャーに関する情報の発信)

国内外において若者を中心に興味・関心が高いアニメ、マンガ、映像等について、その発展や現状等に関して展示会等を通じて海外に情報発信するとともに、それらを学びたい、体感したいとするニーズに応えるため、これらのメディア芸術のための展示施設の充実を図る。



⇒平成18年度国土施策創発調査として、『日本のアニメを活用した国際観光交流等の拡大による地域活性化調査』を行っている。

<『発見！観光宝探しデータベース』アニメ関係掲載施設>

<http://www.kanko-otakara.jp/jp/index.html>

- 萬画(まんが)の国・いしのまき(宮城県石巻市)
- 杉並アニメーションミュージアム(東京都杉並区)
- 東映アニメーションギャラリー(東京都練馬区)
- 香北町やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム(高知県香美郡香北町)
- 水木しげるロード(鳥取県境港市)

三鷹の森ジブリ美術館～地域との連携の例

三鷹の森ジブリ美術館の出口には、「三鷹てくてく街歩きマップ」(日本語・英語・韓国語・中国語で記載)が置かれており、美術館を堪能したあとの三鷹の街の楽しみ方を教えてくれる。このマップには、「スタンプラリー」をはじめ、「三鷹のお勧めスポット」や「三鷹のお土産」(裏面)など三鷹に関する情報が豊富であり、美術館への来訪をきっかけとした地域への波及効果を期待した連携を図っている。



観光地域振興支援メニュー一覧

●観光振興への道筋を創りたい

観光カリスマ塾
訪日外国人接遇研修

観光プロデューサー事業
YOKOSO! JAPAN大使

<地域地区限定メニュー>

「新たな公」による
コミュニティ創生支援プログラム

農商工等連携プログラム

地域資源企業化コーディネート活動等支援事業

●地域が計画した具体的事業（主にソフト面）により観光振興の推進を図りたい

観光圏整備事業

地方の元気再生事業

観光地域づくり実践プラン

<旅行用ツール開発メニュー>

広域・総合観光集客サービス支援事業

<方策限定メニュー>

まちなみめぐりナビプロジェクト

ニューツーリズム創出・流通促進事業

公共交通活性化総合プログラム

<連携メニュー>

地域雇用創造推進事業

●地域を整備（主にハード面）し地域振興・活性化を図りたい

まちづくり交付金

中小商業活力向上支援事業

住民参加型まちづくりファンド支援事業

<地域地区限定メニュー>

景観形成総合支援事業
歴史的環境形成総合支援事業

みなと振興交付金

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

●地域の認知度を高め賑わいを創出したい

VJC地方連携事業

国際会議の開催・誘致推進

地域資源売れる商品づくり・
地域資源活用販路開拓等支援事業
地域資源∞全国展開プロジェクト
JAPANブランド育成支援事業

<地域地区限定メニュー>

北海道みなとオアシス

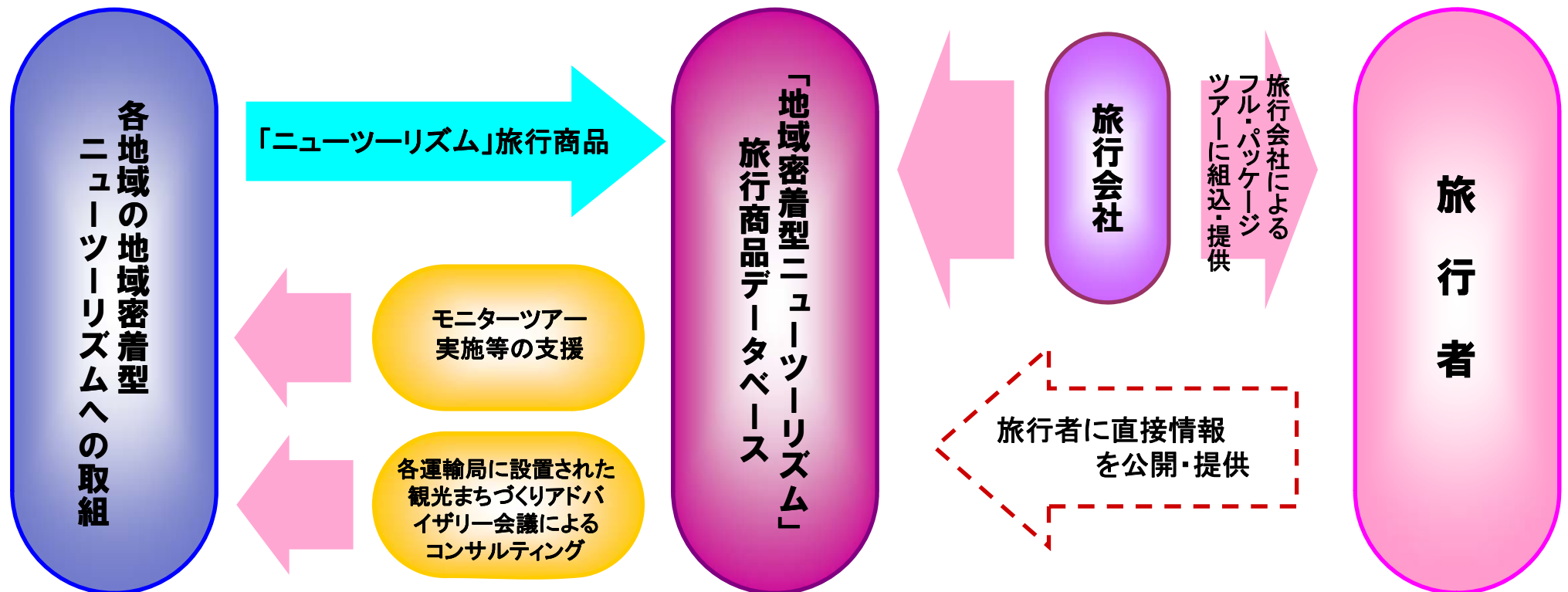
ソフト支援

ソフト・ハード支援

ハード支援

交付金なし

- 「ヘルスツーリズム」、「産業観光」等の新しい形態の旅行市場を活性化するため、「ニューツーリズム創出・流通促進事業」を進めている(平成19年度予算 8,000万円、平成20年度予算 5,600万円平成21年度予算4,800万円)。
- 本事業においては、旅行商品化を進めるための留意点等をまとめたマニュアルやガイドラインの策定を目指すとともに、各地域の地域密着型のニューツーリズムに係る取組みを支援するため、各運輸局ごとに旅行会社や有識者等によるコンサルティングを行うとともにモニターツアーの実施の支援等を行っている。(京都市において実施されたモニターツアーは平成19年度が1件、平成20年度は4件)
- 平成21年度は、「ニューツーリズム」の旅行商品化を進めるための留意点などをまとめたマニュアルの策定等により、「ニューツーリズム」の普及・啓発を図る。



観光庁・地方運輸局の支援体制

「観光地域づくり相談窓口」の設置

1. 趣旨

近年、各地域において、地方自治体やNPO団体などのさまざまな主体による観光地域づくりの取組が積極的に進められています。

こうした活動を支援し、観光による地域の活性化を図るため、観光地域づくりの取組について地域の方々が誰でも気軽に相談できる場として、平成20年4月1日から観光庁内及び地方運輸局等に「観光地域づくり相談窓口」を設置しています。

2. 役割

相談内容に応じ、事例集などによるアドバイスや、農林水産省や中小企業庁など、観光庁(国土交通省)に留まらず他省庁が実施しているものを含めた観光に関する支援メニューの紹介を行い、関係省庁や部局へ橋渡しをします。その後も、状況に応じて適切なフォローを行います。

【観光庁・地方運輸局等における窓口】

- 観光庁観光地域づくり相談窓口
観光地域振興部観光地域振興課／観光資源課
- 地方運輸局等相談窓口
北海道・東北・関東・北陸信越・中部・近畿・中国・四国・九州
運輸局観光地域振興課、沖縄総合事務局運輸部企画室

支援メニューガイドブックの作成(地方運輸局)

地方運輸局においても、観光立国を推進するため、経済産業省や農林水産省、環境省等の関係機関と連携し、観光振興に取り組む地方公共団体などに、それぞれの支援制度を活用していただくことを目的として、「観光・地域づくり関連施策メニュー」を作成し、支援策に関する情報の普及を進めている。



観光庁 観光地域振興部

観光資源課長 水嶋 智

電話：03－5253－8924

E-mail：mizushima-s2xf@mlit.go.jp

観光地域づくり人材育成支援メーリングリスト

http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/jinzai/mailing_list.html

観光庁ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>